

【7-5-f】

在郷町吉田における歴史的建造物の残存状況および建築特性

Remaining Condition and Characteristic of Historic Building in YOSHIDA Traditional Country Town

坂下尚之

Naoyuki SAKASHITA

岡崎篤行

Atsuyuki OKAZAKI

本研究は新潟県燕市吉田町における歴史的建造物および建築特性を明らかにすることを目的とする。対象地内において全建造物を外観から調査し、分析していく。本研究の対象地において全建造物数 982 棟を確認し、234 棟を歴史的建造物と推定した。全体の残存率は 23% であった。形態については竪屋二階建て、竪屋平屋、横屋・丁字二階建てに分類でき、9 割が竪屋二階建てであった。また、京都や村上で見られる縦長横屋はみられなかった。

Keywords YOSHIDA Historic Buildings Characteristic of Historic Buildings
Remaining Condition

吉田 歴史的建造物 建築特性 残存状況

1 研究の背景と目的

吉田町はかつて北国街道の西川通りが通って、長岡藩の在郷宿場町として西川の水運を用い繁栄し町場が形成された。現在でも昔の町割りや歴史的建造物⁽¹⁾が残る市街地である。またこの地区は、西蒲原地区の中では町の規模が大きく、町屋の町並みが残り、町並みの保存に意欲的な住民もいる。また、大地主である今井家の歴史的価値のある屋敷や洋館が残っている。しかし、具体的な保存活動にまでは至っておらず、今後、歴史的建造物が失われていく可能性があり、これらの歴史的建造物は守っていくべきである。また、これまでに歴史的建造物の全体像を明らかにした研究はない。そこで本研究は、既往研究¹⁾で必要性が指摘されている新潟県全域における歴史的建造物の悉皆的な調査の一端を担い、今後の景観整備に資することとする。こそこで、歴史的建造物の残存状況および建築特性を明らかにすることが本研究の目的である。

2 研究方法

- ①歴史的資料や地図・ヒアリングを基に戦前の町場の範囲を把握し対象地の地勢・歴史も踏まえて歴史的建造物の調査範囲を設定する。
- ② ①で設定した対象範囲内の全建造物に対して現地での外観調査を行う。歴史的建造物の推定・抽出⁽²⁾して、

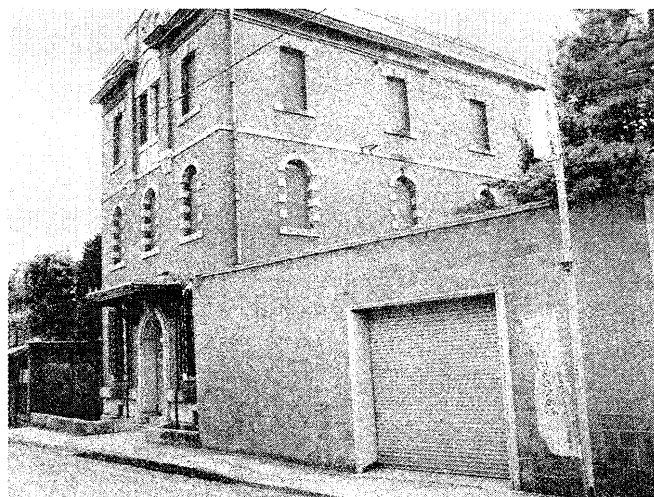


図1 今井家の洋館

*1 新潟大学工学部建設学科建築学コース

Dept.of Architecture, Faculty of Eng, Niigata

*2 新潟大学工学部建設学科助教授・博士(工学)

Assoc.Prof, Dept.of Architecture, Faculty of Eng, Niigata Univ, Dr.Eng.

地区ごとに残存状況を確認し、重要な地区を把握する。さらに建築特性に関する調査も同時に行う。調査項目は、用途に関するもの、形態に関するもの、材料に関するもの、仕上げ・意匠に関するもの、等で20項目以上である。

③ ②の調査により、歴史的建造物を用途によって類型し、主要となる建築形態を抽出する。次に住戸の配置によって類型を行い、さらに町屋のファサードについて類型していく。

以上より、歴史的建造物の残存状況および建築特性を明らかにする。

対象地において全建造物数982棟を確認し、歴史的建造物と推定される建造物234棟を把握した。調査範囲全体の歴史的建造物の残存率⁽²⁾は23%であった。しかし、町丁ごとに見てみると下町が36%、大保町が30%以上であった。その次には中町の29%、上町の26%と続く。また、街道沿い、小路沿いのみの残存率も30%以上であり、街道沿い、小路沿いは重要である。上町については、残存状況についても良くが、特に街道沿いに集中して歴史的建造物が残っているため、町並みの連続性が感じられる。新町は木造の雁木が連続して良く残っているため、昔の町並みの雰囲気を感ぜられる。

文化庁が定める全国各地に残る歴史的集落・町並みの

3 歴史的建造物の残存状況 (図2)

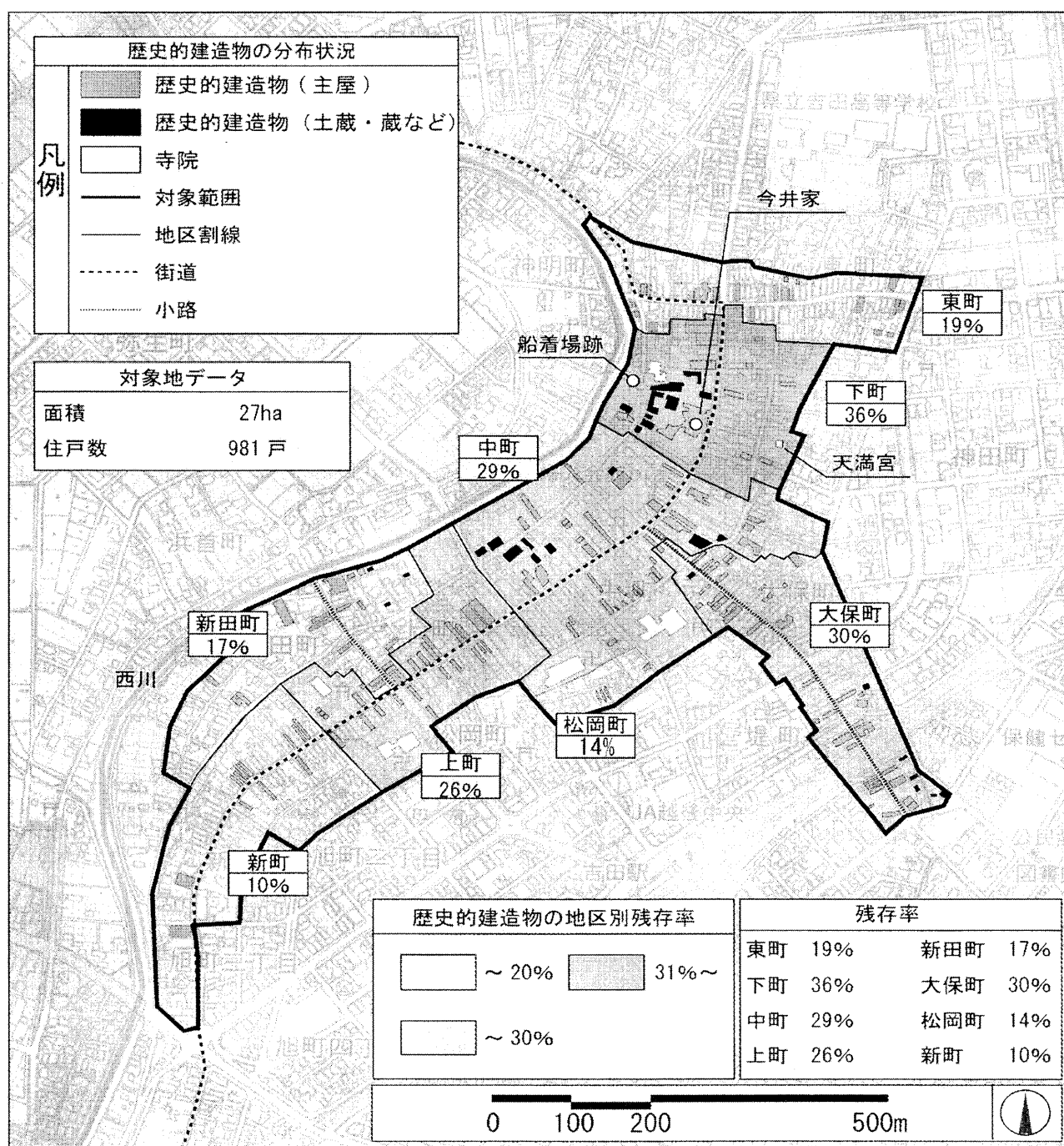


図2 歴史的建造物の残存状況と分布図

保存を図るための「重要伝統的建造物群保存地区」が制定されたことを期に歴史的な町並みの保全が全国各地で進められている。この重要伝統的建造物群保存地区の平均残存率が約30%であることと比較すると、下町の36%や大保町の30%は残存率の面だけを見ればひけをとらなく、よく残存しているといえる。

4 歴史的建造物の建築特性

4-1 歴史的建造物の分類 (図3、4)

歴史的建造物は、町屋・136棟、長屋・3棟、屋敷・4棟、寺院・神社、12棟、土蔵・小屋・60棟に分類できた。町屋の建築形態は、縦屋・120棟、横長横屋・14棟、縦長横屋・0棟、丁字・2棟に分類でき、縦屋が約9割を占めた。(図3、4) 屋根についても見てみると、ほとんどが切妻屋根であり、切妻縦屋の町屋が吉田町の特徴といえる。また、京都や村上で見られる縦長横屋は一棟も見られなかった。

また、立地別に見てみると、街道、小路沿いには横屋はほとんど見られず、路地に9頭のみ確認できた。

4-2 町屋のファサードにおける分類

歴史的建造物をファサードによって分類すると、縦屋二階建て・119棟、縦屋平屋建て・1棟、横屋二階建て・7棟、丁字二階建て・2棟の主要四種類に分類できた。縦屋についてはさらに、前面に雁木が付くもの、前下屋が付くものに分けられた。縦屋二階建てが最も棟数が多く、全域に分布していた。横屋二階、平屋建てについては、街道沿い、小路沿いではほとんど見られず、裏通りに多く見られた。丁字については、街道沿いに、小路沿いにそれぞれ一棟ずつ確認できた。

4-3 町の棟と街道の関係 (図5)

吉田は町の軸(メインの通り)がはっきりしており、街道を軸としてみると裏通りまで街道を軸に縦屋の配置となっている。また、横屋が見られる場合は敷地的な制限がある場合のみである。吉田では、街道と小路で町の棟が決められたのではなく、街道のみで町の棟が決められたと思われる。

数字的に表すと、(表2)

□街道軸とした時との縦屋の割合(縦屋/全体)=91%

□前面道路を軸としたときの縦屋の割合=75%

となり、数字的にも吉田は街道をメインに縦屋の配置となっている。吉田は街道を軸に線的に町が構成されているといえる。

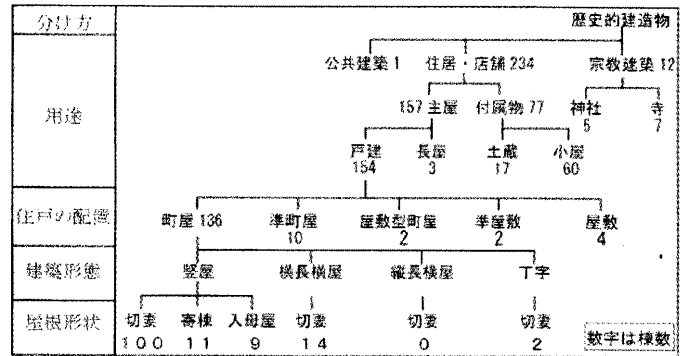


図3 歴史的建造物の分類

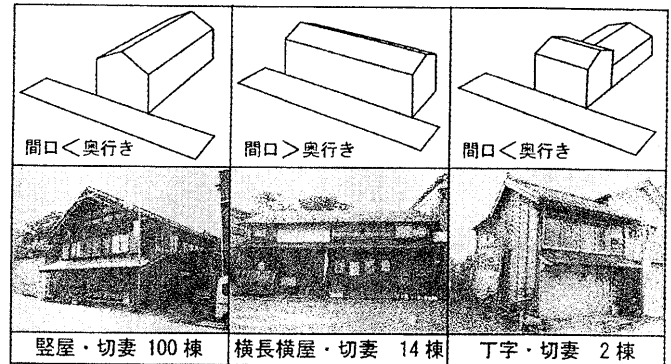


図4 吉田に見られる町屋の建築形態

表1 立地別の建築形態

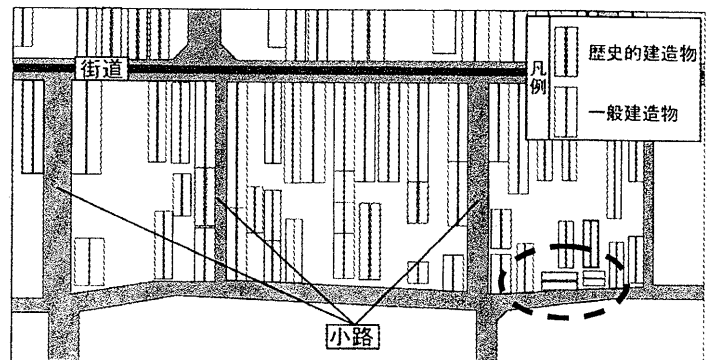
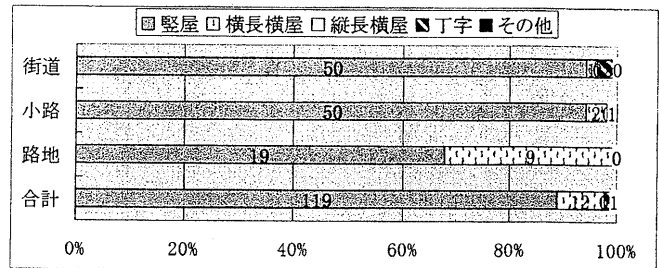
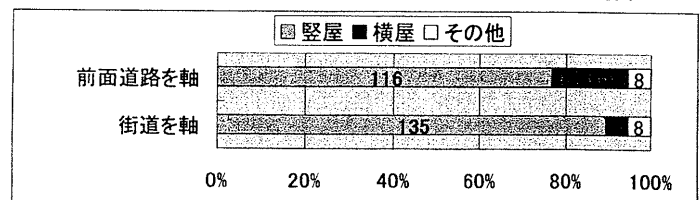


図5 町の棟と街道の関係

表2 街道・前面道路を軸とした時の縦屋の割合



4-4 特徴的な細部意匠

「なまず」(図6)はおもに建造物の基礎を守るものである。街道沿いで多く見られた。堅屋の二割程度についていた。

「絵振板」(図7)は街道沿いに多く見られた。機能性よりは見栄え重視のためと思われる。木製、銅製など材料もデザインも豊富に確認できた。

「張り出し二階」(図9)は広く調査範囲内全域に分布しており、堅屋、丁字に多く見られた。戸袋とセットになっている場合が多い。

「窓付き雨戸」(図8)は雨戸に開口部を設け、採光を得られるようにしたもので、街道沿いに多く見られた。

「せがい造り」は街道沿いの堅屋、丁字にのみ見られた。

「戸袋」(図10)は様々な意匠に富んだものが確認できた。大抵の歴史的建造物で確認できた。

「トラス組」(図11)は妻面の小屋組がトラスになっているもので、街道沿いで数棟確認できた。

5 結論

(1) 吉田町は、北国街道西川通りの在郷宿場町として発展し、現在でも当時の町割が残り、今井家の洋館をはじめ多くの歴史的建造物の残る歴史的価値のある町である。

(2) 本研究の対象地において全建造物数982棟を確認し、主屋、寺社、土蔵等合計234棟を歴史的建造物と推定した。

街道沿い、小路沿いでは残存率31%、歴建主屋率99%、主屋残存率31%であり、良い残存率といえる。中でも上町は残存率40%で、重要な地区といえる。

(3) 歴史的建造物234棟のうち、様式から分類すると「町屋」「長屋」「屋敷」「寺社」「寺院」「土蔵・小屋」の6種類に分類できた。

さらに町屋は「堅屋」120棟、88%、「丁字」2棟、1.5%、「横長横屋」14棟、10.5%に分類でき、ほとんどの町屋が堅屋である。また、横屋は、横長横屋しか見られず、村上や京都見られる縦長の横屋は一棟も見られなかった。

(4) 吉田は街道を軸に線的に町が構成されている。また横屋が見られる場合は、敷地的な制限があるときのみであった。

(5) 歴史的建造物、特に町屋の意匠に関しては、せがい造りや張り出し二階、窓付き雨戸、ガラス雨戸、戸袋、絵振板、なまず、などが挙げられる。せがい造りは丁字、横屋に見られ、張り出し二階、なまずは堅屋に、窓付き

雨戸、ガラス雨戸、絵振板、戸袋は広く全般に見られる。

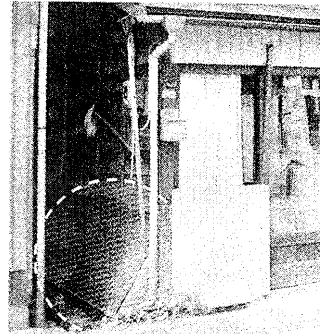


図6 なまず

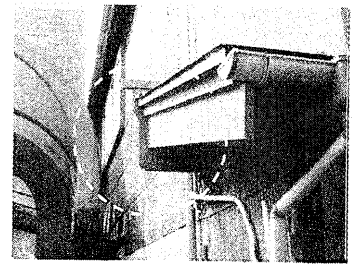


図7 絵振板

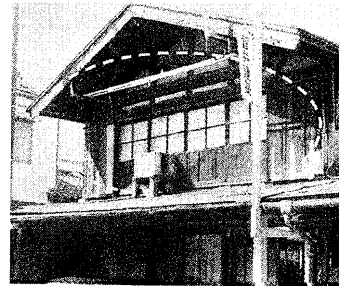


図8 窓付き雨戸



図9 張り出し二階

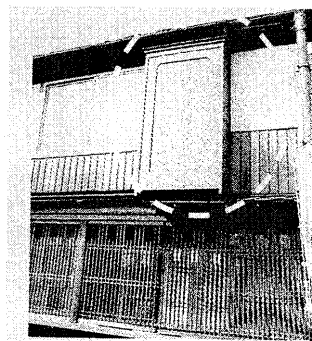


図10 戸袋

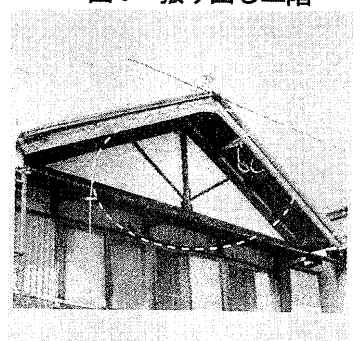


図11 トラス組

【補注】

- (1) 第二次世界大戦前に建てられた建造物
- (2) 軒の様子、基礎の有無、ヒアリングにより判定する
- (3) 全建造物の総数のうちの歴史的建造物の割合

【参考文献】

- 1) 佐藤憲明「街道沿いの集落における歴史的建造物群の残存状況と特性～新潟県岩船郡とその周辺を対象として～」新潟大学自然科学研究科博士前期過程前期過程環境システム科学専攻建築学教育研究群修士論文2004.2
- 2) 加藤 健二「新潟県下越地方における歴史的建造物群の残存状況と建築的特性～中蒲原・東蒲原両群地域を対象として～」新潟大学自然科学研究科博士前期過程前期過程環境システム科学専攻建築学教育研究群修士論文2006.2
- 3) 小林 満「河港町津川における歴史的建造物の残存状況および建築的特性」新潟大学工学部建設学科建築学コース都市計画研究室卒業論文2006.2
- 4) 大場修「近世近代町家建築史論」中央公論美術出版 2004
- 5) 上田篤・土屋敦夫「町屋・共同研究」鹿島出版 1975